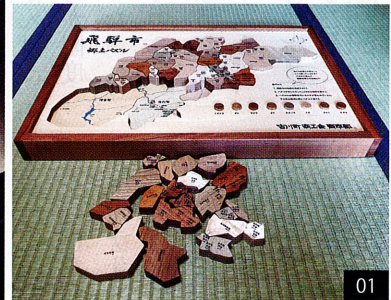




01/飛騨産の木材で製作した「飛騨市郷土パズル」 02/「雲外蒼天」の文字とともに、書道家の茂住菁邨氏と青年部のメンバー



01

02



コロナ禍でもできる地域貢献。 パズル製作とイベントを開催

古川町商工会青年部（岐阜県）



田中大輔 部長

古川町商工会のある飛騨市は岐阜県の最北端に位置し、周囲は3000mを超える飛騨山脈などの山々に囲まれています。市の面積の約93%を森林が占め、とくに広葉樹の割合が68%と非常に高いのが特徴です。青年部では、コロナ禍で自由に遊んだり学んだりすることが難しくなった子どもたちに、何か「楽しみ」と「学び」を提供できないかと考えました。そこで、飛騨市の広葉樹を生かしたまちづくりの取り組みをヒントに、地元飛騨産の木材を使用した「飛騨市郷土パズル」を独自に製作しました。木材の調達や加工、地理データの作成など、部員それぞれがもつ知識や技術、これまで培ってきた人脈を生かして「飛騨市郷土パズル」は完成。今年4月に市内の小学校に寄贈しました。パズルの切り抜きは地元の糸鋸職人に、題字は「令和」を揮毫した書道家・茂住菁邨氏（飛騨市古川町出身）に書いていただきました。この地理と地形が学べるパズルを通して、子どもたちが地域への理解と愛着を深めることにつながれると思います。

書道家が文字をしたためる パフォーマンスも

今年8月7日には、青年部主催イベント「七夕まつりとナイトミュージアム」を開催しました。メインは、地元有志「飛騨古川四神太鼓」による演奏と部員による花火をバックに、青年部員が選んだ文字「雲外蒼天（努力した先には希望が待っているの意）」を、前述の茂住氏がしたためるパフォーマンス。会場は幻想的な雰囲気になりました。また、市の美術館では照明を落とした館内で親子連れがブラックライトを使って隠された絵を探すゲームを開催。地元飲食店のキッチンカーにも協力いただき久しぶりに活気ある地域振興イベントとなりました。コロナ禍での開催は困難もありましたが、企画から自分たちの手で行い、関係各所との協力を重ね、多くの方のご協力を得ることで成功させることができました。このことは今後の青年部の活動だけでなく、それぞれの事業所での活動にも生かすことができると思います。